

NEWS RELEASE

2012年11月7日
コベルコ建機株式会社

コベルコ建機 2012年9月中間期 決算概要

【2012年9月中間期の概況】

国内の建設機械市場は、東日本大震災の復旧・復興需要が引き続き堅調でレンタル業界向けを中心に伸張しました。油圧ショベルの国内上期総需要は、前年同期と比べ重機ショベルで4割強、ミニショベルで3割増加しました。

海外の建設機械市場（海外事業の上期対象時期は1-6月）は、中国を除き総じて堅調に推移しました。世界最大の油圧ショベル市場である中国は、金融引き締めの影響に端を発し、景気そのものが鈍化しており、ショベル需要は前年同期と比べ、重機ショベルで4割、ミニショベルで3割それぞれ減少しました。中国以外の市場を見ても、長らく低迷を続けていた米国市場は重機ショベル、ミニショベルともに、前年同期比で5割程度需要が増加し、順調に回復軌道を歩んでいます。債務危機が長引く欧州と景気が後退しているインドは低調に推移しましたが、前年同期に比べ微増となりました。日・米・欧に肩を並べる市場に成長している東南アジアの重機ショベル需要も、前年同期比で3割強増加しました。

世界総需要は最大市場の中国の低調が影響し、前年同期比で重機ショベルが1割強減少し、ミニショベルは辛うじてプラスの水準となりました。

昨年は、東日本大震災の影響で国内外で一時的に生産に支障が生じるなどの影響がありましたが、その後、部品調達にも万全を期し、グループ丸となって生産量の確保に努め、増産を続けながら五日市新工場への移転も計画通り行ないました。その結果、国内での販売台数は、前年同期と比べ重機ショベルで8割増、ミニショベルで9割増と市場の増加率を上回る販売量を確保いたしました。

コベルコ建機グループは、2010年度からスタートした中期経営計画3カ年の最終年を迎えています。主力商品の油圧ショベルは低燃費・省エネ製品として顧客から支持されています。また、部品サービスの充実や、国内外できめ細かなサービス網の拡充にも努めてまいりました。グローバルな事業展開も着々と進め、グループ全体の開発・生産・調達面における司令塔としての機能を果たすグローバルエンジニアリングセンター（以下GEC）が本格的に稼働を開始しました。

今後、最新鋭の五日市工場では、顧客本位の観点から魅力ある品質向上を追求していくと共に、生産性改善に拍車をかけ、一段と効率的で顧客ニーズにタイムリーに 대응する供給体制の確立に取り組んでまいります。

これらの結果、2012年9月中間期（2012年4月～2012年9月）の業績は、以下の通りとなりました。

＜2012年9月中間期の実績＞

{単位：百万円、（ ）内は前年同期比}

		売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
連結	2012年9月中間期	150,374 (▲16.5%)	8,511 (▲57.0%)	5,619 (▲69.7%)	1,574 (▲66.4%)
	2011年9月中間期	180,181	19,812	18,552	4,684

(小数点以下切捨)

連結の売上高は、国内事業が501億円（前年同期比+20.9%）、海外事業が1,002億円（同▲27.7%）で、全体としては1,503億円（同▲16.5%）となりました。連結売上高の海外比率は、66.7%となり、前年同期（77.0%）より低下しました。

【2012年9月中間期の事業別状況】

■ 国内事業

国内では、東北エリアを中心とした東日本大震災の復旧・復興需要や九州・紀伊半島地域での集中豪雨からの災害復旧需要などを背景とした需要増加に加え、ストック調整が進んだことによる更新需要などが重なり、レンタル業界向けを中心に需要は大きく拡大しました。国内の旺盛な需要に対応するための増産体制を整えるとともに、復旧・復興事業で稼動する機械の増加に対応するためのサービス拠点強化にも努めるなど製販一体になってそれぞれの課題に取り組みました。大手レンタル業者や各地域の地場レンタル業者向けへの営業戦略も時流に沿ったものとなりました。その結果、販売台数は大幅に増加しました。今後も、国内は重要な市場と位置づけ、顧客のニーズにタイムリーにお応え出来るような体制を整えていく予定です。

五日市新工場（広島県）に関しては、5月以降、生産設備の移管を順次進めており、来年1月には全ての移転を完了する予定です。

また、グループ全体の生産および開発の最適化を狙ったGECも本格的な稼動を開始しました。国内生産現場での徹底した生産性向上活動と、原価低減（VE）活動を推進しながらコスト競争力を強化しています。それらの活動を通じて獲得した、ものづくりの成果、ものづくりのノウハウはGECを経由して海外の生産拠点にも展開してまいります。

■ 中国事業

中国では、昨年からの金融引き締め政策などを契機として景気が鈍化し、月を追って需要が減退していきました。今上期（1月-6月）の総需要は、前年同期と比べ重機ショベルで4割強減少し、ミニショベルは3割強減少しました。コベルコ建機グループでは厳しい市場動向が続く中、きめ細かなサービスなどは継続しつつ、安易な価格政策とは一定の距離を置き、慎重な事業活動を展開いたしました。その結果、重機ショベルは日系メーカーの中では減少幅は少なかったものの、前年同期比5割強販売量が減少しました。一方、ミニショベルは前年同期比1割程度の減少にとどまりました。足下の状況を見ると、下期（7月-12月）に入っても前年同期比減少が続いており、明確な需要好転の気配が感じられず、景気後退は継続している為、急激な回復は期待できない状況となっています。

領土問題を契機にした排日的な動きは、現下はさほど大きな影響には至っていませんが、今後の動向に注視し、慎重に対応していかなければなりません。また、新政権がどのような景気対策を実施するかについても注目しています。中長期的には、西部大開発の10年延長や水利事業計画の進展、鉄道インフラ整備計画の再開など、今後も需要は伸びていくものと予想しています。コベルコ建機グループでは、次の成長タイミングに向けて、メーカー直営の主力サービスセンターの充実、4S代理店*の育成・構築にも注力してまいります。

※ 4S代理店：セールス、スペアパーツ、サービス、サーベイの4つのSの略でこれらを重点的に取り組む代理店の総称

■ 海外事業（中国事業を除く）

中国を除く海外においては、コベルコ建機グループの主担当地域であるAPACエリアを中心とした事業展開の拡充に取り組みました。APACエリアは、最大需要地であるインドネシアにおいてもパームヤシ分野や一般土木は堅調に推移しました。タイの水害復興需要や順調な経済成長に伴い、ショベル市場も比較的堅調に推移しました。その結果、東南アジア全体の総需要は、前年同期比で3割強増加しました。順調に拡大する東南アジア地域の需要に対応するため、タイ工場の生産能力を従来の3,600台/年から5,500台/年に増強しました。この結果、コベルコ建機グループの販売量は市場の伸びを上回り、5割強増加しました。

一方、東南アジア市場の最大需要地であるインドネシアにおいて、鉱山開発関連の需要減少による影響が一般土木分野に波及する可能性もあり、予断を許さない状況になってきています。

【今後の重点課題と2012年度の見通し】

世界全体の経済状況を俯瞰すると、足下は景気下降局面に直面していると考えられます。日本やタイなど、限られた地域で震災復興需要や水害復旧需要に支えられていたり、米国市場が緩やかな回復傾向を見せているなどの兆候はあるものの、欧州の債務危機による景気低迷が中国の景気減速に影響を与え、中国の景気減速が資源国・新興国に波及している状況です。

東南アジア最大の市場であるインドネシアでは、鉱山開発関連需要の低迷により一般土木分野での競合の激化といった傾向も出てきています。ポスト中国の期待がかかるインドも成長スピードが足踏みしています。このように、世界の牽引役を担ってきた新興国経済の動向に不安感が見え始めていることから、当社グループを取り巻く市場環境の先行きに関しては、楽観できない状況と考えています。

これらの厳しい視点にたち、コベルコ建機グループでは、経営体質の強化に取り組んでいくことが当面の大きな課題となります。まずは、全体最適の司令塔となるGECが本来の機能を早期に発揮させていかなければなりません。また、五日市新工場では顧客本位の品質強化に取り組むと共に、超円高下においても、国内において事業を継続するために更なる生産性向上に取り組むことなど、あらゆる面において体質強化を進めています。

このような体質強化の成果をあげることで、更には海外の拠点にもその成果を広めていくことによってグループ全体を底上げしていくことが具体的な課題となります。これらの課題に取り組みながら、来るべき将来の上昇局面に備えていく考えです。

これらの状況を踏まえ、2012年通期の見通しは以下の通りと想定しています。

<2012年度通期の見通し>

{単位：百万円、()内は前年度比}

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
通期連結見通し	285,000 (▲7.2%)	13,000 (▲44.0%)	6,000 (▲73.8%)	300 (▲93.3%)
前期連結実績	307,159	23,200	22,865	4,488

(2012年度下期における為替レート前提： 1米ドル=78円、1ユーロ=100円)

*上記の予想は本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであります。
実際の業績は、今後様々な要因によって大きく異なる結果となる可能性があります。

以 上

平成25年3月期 第2四半期決算業績概要

会社名	コベルコ建機株式会社	TEL :	03 (5789) 2111
代表者	代表取締役社長		藤岡 純
問合せ先責任者	取締役常務執行役員 企画管理部長		三木 健
親会社名	株式会社 神戸製鋼所 (当社株式の保有比率: 80%)		
	CNH Global N.V. (当社株式の保有比率: 20%)		

1. 平成25年3月期第2四半期の連結業績(平成24年4月1日～平成24年9月30日)

(1) 連結経営成績

(%表示は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
25年3月期第2四半期	150,374	△16.5	8,511	△57.0	5,619	△69.7	1,574	△66.4
24年3月期第2四半期	180,181	2.6	19,812	△1.0	18,552	△1.5	4,684	△21.5

	1株当たり四半期純利益
	円 銭
25年3月期第2四半期	4 91
24年3月期第2四半期	14 63

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
25年3月期第2四半期	382,464	61,680	10.9
24年3月期	370,543	56,995	10.8

2. 平成25年3月期の連結業績予想(平成24年4月1日～平成25年3月31日)

(%表示は対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
連結(通期)	285,000	△7.2	13,000	△44.0	6,000	△73.8	300	△93.3

*上記の予想は、現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいて作成したものであります。